

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 伊勢市	対談項目1 災害に備えた都市基盤づくり	(1)地域の減災力向上に向けた県補助制度の拡充と市町の利用しやすい制度への改善	<p>防災に係る県補助制度の内容をもう少し拡充してほしい。</p> <p>また、起債をして早くやっていきたいと考えているが、防災の関係だけ、県単補助金を受けた場合、起債はご遠慮いただきたいと聞いている。</p>	<p>「地域減災対策推進事業（地域減災力強化推進補助金）」において支援しているところです。津波避難タワーや津波避難ビルへの外付け階段など、津波避難施設整備に対し、補助を行っております。補助メニューは毎年改善し、平成25年度は、防災倉庫等の整備、けん引式車いす補助装置やライフジャケットなどの災害時要援護者対策用資機材の整備も補助対象メニューしました。</p> <p>補助裏への起債充当につきましては、合併特例債や過疎債などは充当可能です。但し、本補助金は、国の支援制度で対象とならない事業を支援するとともに、限られた財源を広く活用いただく主旨から、国庫補助関連事業、他の補助対象費用による事業と重複するもの事業については、補助対象外としておりますので御理解願います。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 伊勢市	対談項目1 災害に備えた都市基盤づくり	(2)内陸に建設する統合校敷地購入に係る経費、避難対策機能に係る経費についての県支援 今後、避難困難地区に7箇所の避難タワーの建設を計画しています。一方、小中学校の統廃合を進めていますが、東日本大震災の教訓を踏まえ、沿岸部の小中学校については、統合する際、内陸に建設をしたいと考えています。内陸に建設する統合校の敷地購入に係る経費について、補助制度の創設・拡充をお願いします。	国では、南海トラフの特別措置法が提出されました。学校の統廃合の移転の補助メニューが創設されると思います。国へは建物の補助のみならず、土地の造成や取得についても補助メニューとなるよう要望していきます。
3 伊勢市	対談項目2 観光基盤の整備及び誘客戦略	(1)外宮周辺における交通対策 ①南北幹線から効果的な外宮の誘導策について 南北幹線の周知・利用が少ない状況にあるので、国道・県道に(外宮への誘導策)サインの設置をお願いしたい。また、開通する第二伊勢道路についても、事前に市町と連絡をとってサインの設置をお願いしたい。	案内標識設置等のソフト対策について、市と国と一緒に検討していきたい。
4 伊勢市	対談項目2 観光基盤の整備及び誘客戦略	(1)外宮周辺における交通対策 ②外宮周辺の駐車場確保 外宮周辺の渋滞対策として県の伊勢庁舎の利用について、協働して出来ればと思っております。	伊勢庁舎については、使っていただいて結構です。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 伊勢市	対談項目2 観光基盤の整備及び誘客戦略	(2)外宮周辺の景観対策 県道を横切る架空線の地中化	伊勢市駅から外宮へ向かう道で、2箇所地中化が進んでいないところがあるのでお願いしたい。	県と市と警察(信号)と中部電力(電線)で調整しながら対応を検討していきたいと考えています。
6 伊勢市	対談項目2 観光基盤の整備及び誘客戦略	(3)首都圏の日本橋アンテナショップの活用	市長から発言なし。	(知事が皇學館大学の学生へPR)
7 伊勢市	対談項目2 観光基盤の整備及び誘客戦略	(4)バリアフリー観光	近年、伊勢市として、バリアフリー観光を進めてきました。本日のバリアフリー観光全国フォーラム伊勢大会で、知事は「日本一のバリアフリー観光県推進宣言」された。市の事業に対して資金面等の協力をお願いします。	バリアフリー観光は、障がいを持っている人だけではなく、高齢者や子供に対してもホスピタリティ満載のものであるべきと思っています。 伊勢志摩バリアフリーツアーセンターのノウハウやネットワークを活用したコンシェルジュ機能の仕組みづくりや各地域におけるバリアフリー観光の動き等を勘案しながら、いっしょになって検討していきます。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
8 伊勢市	対談項目2 観光基盤の整備及び誘客戦略	(5)スポーツ誘客	<p>県営サンアリーナのところにサッカー場を4面(赤福から)寄贈していただいた。来年には、市営倉田山球場もリニューアルを予定している。県のスポーツ誘客について考えを聞かせていただきたい。</p>	<p>本県では現在、スポーツコミッションを推進する市町の取組事業に支援を行っており、スポーツイベントの誘致や開催に向けた組織づくり及び運営支援を行うため、「日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)」の協力を得て市町にアドバイザーを派遣することなどに取り組んでいます。</p> <p>平成24年度 鈴鹿市、紀北町で実施。</p> <p>平成25年度 鳥羽市、志摩市、菰野町、紀北町で実施予定。</p>
9 伊勢市	対談項目2 観光基盤の整備及び誘客戦略	(6)外国人観光客誘致	<p>伊勢市では、国際観光について民間の観光交流とともに大使館・領事館と連携をしながら取り組んでいきたいと考えていますので、お知恵をお聞かせ願いたい。</p>	<p>内宮おかげ横丁や外宮参道にWi-Fi環境を整備したり、伊勢商工会議所が実施する「かざすCITY伊勢」の翻訳業務をサポートするなどの取組を行っているところです。</p> <p>なるべく大使や領事など発信力のある人に三重県にきてもらう努力をしているところです。情報発信をしっかりとやっていきたいと思っています。</p>

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
10 伊勢市	対談項目3 医療体制の充実	(1)医師、看護師確保	<p>医師の確保、看護師の確保が肝となっていますが、医師バンクの情報がミスマッチです。個人情報の問題もありますが、医師バンクの情報をシェアリングできるようなプラットフォームの構築をお願いします。</p>	<p>医師不足・医師確保については、三重県地域医療支援センターにおいて、若手医師が地域の医療機関をローテーションするプログラムを作って、なるべく多くの医師が県内に定着するようにしたところです。</p> <p>今、市長が言われた、各病院が得た情報についても共有して県内に医師が定着していけばいいと思っています。</p> <p>本年度、4000万円をかけて「医師の需給調査」を県独自でやっています。地域別・診療科目別などかなり詳しい調査をやっていますので、その結果も踏まえてどのようなローテーションや情報共有がいいのか仕組や運用について考えていきたいと思っています。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
11 伊勢市	対談項目3 医療体制の充実	(2)災害医療支援病院及び災害拠点病院取得に対する支援	<p>災害拠点病院の取得を目指していますが、ハードルが高いので、その前に災害医療の支援病院の取得ができないかと考えています。</p> <p>災害派遣医療チーム（DMAT）の養成所が、東京と兵庫県にしかない中、県が災害医療支援病院を計画しているとのことなのでぜひとも手をあげたい。また、静岡、三重、和歌山、四国でチームを作るのもひとつではないかと思うがいかがでしょうか。</p>	<p>災害拠点病院は、2次医療圏にひとつとなっています。南勢伊勢志摩のところで言いますと、伊勢の赤十字病院と志摩病院になっています。</p> <p>厚生労働省の基準で、災害拠点病院が増やせないのなら災害医療支援病院を作ろうと取り組んでいるところです。</p> <p>災害医療支援病院の設置要件については、三重県医療審議会の中の災害対策部会で検討してもらっています。</p> <p>また、災害派遣医療チーム（DMAT）については、厚生労働省が実施するDMAT研修を受講する必要がありますが、受講チーム数が限られており、災害拠点病院以外の病院の受講が厳しい状況です。今後、受講チーム数の拡大を同省へ働きかけていきます。</p>

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
12 伊勢市	対談項目3 医療体制の充実	(3)新病院建設に対する支援	新病院を建設するのに100億程度かかりますが、地域医療再生基金が本年度で終わってしまいますので、厚生労働省への働きかけをお願いしたい。	県としても地域医療再生基金の中から災害医療拠点病院や医師確保の修学資金の貸与とか在宅医療の仕組づくりを出しているのので、26年度以降もしっかり延長して欲しいと思っています。伊勢の新病院のことも事例としてあげながら国に対して要望していきます。

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
13 伊勢市	対談項目4 教育	(1)福井県への職員派遣の成果等も踏まえた学力向上の取組について	福井県へ職員派遣して、現場にも反映していただき教員も感謝しておりました。伊勢では「学力・体力・心」の3つで取り組んでいるところです。	福井県は、学力も体力も日本一。そこへ三重県の教員を2名派遣しました。福井県では、地域全体で教育をしなければという気運がありました、そこで三重県では「三重の学力県民運動」をスタートさせました。福井県で、実務的に一番大きかったのは「宿題」のサポートでした。福井県では、宿題をサポートするプリントなどが県のホームページに載って多くの先生が活用できるようになっています。三重県にはなかったもので、本年度、先生が宿題に使えるツールをホームページに載せました。あと福井県は、先生同士の学びあい、授業の改善・切磋琢磨が凄かったので、三重県もプロジェクトチームを作りました。伊勢市からもプロジェクトのメンバーとして、中学校の教員2名に参加いただいております。

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
				<p>伊勢市の学力向上の取組については、本年2月に県教育委員会が開催した「三重県研究指定校等合同発表会」において、発表いただきました。子どもたちの学力の状況を客観的に把握し、授業改善に生かす取組と学級満足度調査等を活用し、子どもたちが安心して学ぶことができる環境づくりを一体的に推進し効果をあげていると伺っており、他の市町の参考となったところです。</p>

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
14 伊勢市	対談項目4 教育	(2)外国人の子どもの言葉の問題への取組	<p>外国人の子どもへの日本語の支援のサポートが課題となっています。</p> <p>巡回相談員の数を、例えば、北勢ブロック、中勢ブロック、南勢・紀州のブロック割で配置していただくとありがたいので、協議の場を設けていただきたい。</p>	<p>県内の日本語指導が必要な外国人児童生徒の人数は、平成24年9月1日現在、1519人(平成14年比859人増)で、母語とする言語別の内訳は、ポルトガル語が755人、スペイン語が402人、タガログ語が156人、中国語が70人となっています。</p> <p>伊勢市の状況については、平成24年9月1日現在で、小学校に7人が在籍しており、母語とする言語別の内訳は、ポルトガル語3人、中国語4人です。</p> <p>巡回相談員の内訳は、ポルトガル語9名、スペイン語2名、タガログ語1名となっており、ポルトガル1名を伊勢市に派遣させていただいているところです。</p>

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
				<p>他の市においても（桑名、いなべ、四日市、鈴鹿、亀山、津、松阪、伊賀）それぞれに外部支援員を採用されており、報償費の補助を県もしていますし、国もしています。伊勢市におかれてもこの制度を活用して巡回指導員を追加していただければと思います。</p> <p>派遣の在り方については、市町の声聴いていかなければと思っております。ブロック別ができるかどうかはわかりませんが、現場のニーズを聞くことは大事なことだと思っております。</p>

15

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
伊勢市	(当日追加項目)	市に対する補助金の減額について	<p>保育所に対する補助金の減額が本年度ありましたが、疑問が残りました。県からの打診が市の予算編成の際であり納得できないものでした。</p> <p>低年齢児保育推進事業補助金が、待機児童の多いところに手厚くそうでないところに薄くなりましたが、待機児童を出さないように努力してきた民間の努力、地域の努力に対して補助金の減額はちょっとどうなのかなと思っています。</p> <p>産休の代替え職員の補助金がありましたが減額されました。</p> <p>これらの点について改善していただきたい。</p>	<p>低年齢児保育については、待機児童の86%が0～1歳児なので、低年齢児に手厚くしようという考えで今回補助の見直しを行いました。市長が言われるように、間近だったり、今までの努力したところが減らされるのがおかしいというのは全くそのとおりです。</p> <p>今、国がやっています「子ども子育て新システム」や国の財源の状況を見て見直ししていきたいと思います。早めに協議することについても努力していきます。</p> <p>産休の代替職員の補助金の削減については、本年度、保育士の待遇改善ということで3億8千万円補助を積みましたので、そのスクラップアンドビルドの結果だと思います。来年度どうするかについてはまた意見交換させていただきたいと思っています。</p>